

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	トライデント・クエスト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：TRIDENT QUEST

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：TRIDENT

フレアーの幅 インチ

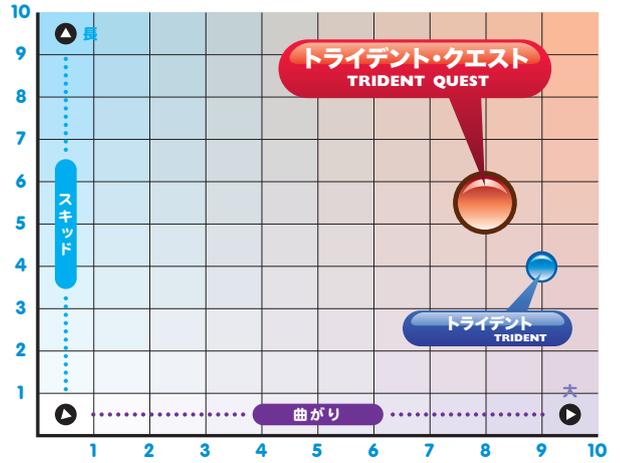
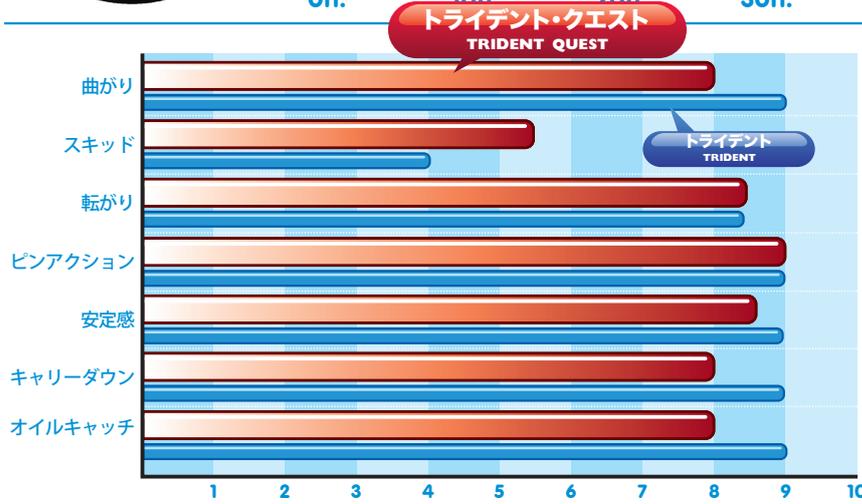
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIVブランドから待ちに待ったボールでもあるTRIDENTの最新作、TRIDENT QUESTが約1年ぶりに発売されます。初代TRIDENTはTurbulent CoreにCoercion HVH (High Volume Hybrid) coverstockを採用しており、Box Finishも3000 Grit LSSというSand仕上げでした。今回のTRIDENT QUESTはHexion ReactiveというREVOLT HAVOCに代表されるHelix CoverstockにFriction(よりBackendで動きをさせる)性能をさせる調合のCoverstockに変更されてきたのが最大の特徴です。

TRIDENTとTRIDENT QUESTを比較投球してみると、3000 Grit LSS仕上げのTRIDENTと5000 Grit LSPというSand仕上げとPolish仕上げとの差はありますが、TRIDENTはMidでのブレーキがかかり、しっかりとやや角が出るイメージの動きを感じます。一方TRIDENT QUESTはやや走りが先行するイメージがあるのですが、Backendにの動きを強調させるコンセプト通り、曲がり始めはやや遅くは感じますが、しっかりとピンヒット手前で食い込むイメージがみて取れます。

TRIDENTがHeavyOil対応のスペックに対し、TRIDENT QUESTはMedium Heavy対応ですので、TRIDENT二種類でしっかりと住み分けができており、TRIDENTからTRIDENT QUESTへとボールチェンジが可能なのも示唆しています。Hexion Reactiveはキャッチの強さは感じますが、やはりコンセプトにあるBackendの動きを重要視したことでスキッドを長くするための配合がされています。そのためオイルを長く使わずに走り過ぎる印象が強くなり、逆にオイルの薄さに反応して、すぐ手前から曲がり始めたりするところが見られる傾向があるようです。私の場合はBox Finishの5000 Grit LSPで投球するより、ほんの少し光沢を消すだけの表面加工も試しましたが、走りは若干少なくなるものの、トータルバランスを考えるとやや光沢を消す加工が私には好印象でした。

特記事項

TRIDENTのネジれ感が強いTurbulent CoreをBackendに動きを集約してパフォーマンスと表すコンセプトで生まれたTRIDENT QUEST。